

# “ちとせ”を好きになる

## 市民講座

### 保存版 講座のまとめ

#### 第1回

9/28(土)

13:30~16:00

テーマ **千歳の歴史 ~ちとせと空港のはじまり物語~**

ゲスト 前千歳市史編纂担当 中村 康文 さん

千歳市企画部空港政策課空港調整係長 石徹白 悟 さん



#### 第2回

10/19(土)

13:30~16:00

テーマ **千歳の現在① ~魅力いっぱいのちとせ~**

ゲスト 千歳市観光スポーツ部観光企画課企画振興係 藤原 あづさ さん

千歳市企画部空港政策課空港政策係長 中谷 要 さん



#### 第3回

11/2(土)

13:30~16:00

テーマ **千歳の現在② ~みんなで育てるちとせ~**

ゲスト 千歳市長 山口 幸太郎さん

株式会社けーあいファーム 五十嵐 重明さん



#### 第4回

11/16(土)

13:30~16:00

テーマ **千歳の未来 ~ちとせの未来はどうなるの?~**

ゲスト 千歳市企画部企画課長 小尾 千智 さん

千歳市企画部企画課(政策推進担当) 横山 貴史 さん

グループワークファシリテーター

GOOD?WORKSHOP 溝渕 清彦 さん



#### 第5回

11/30(土)

13:30~16:00

テーマ **まちを好きになる学び ~ひとりひとりができること~**

ゲスト いしかり市民カレッジ運営委員会 林 一元 さん

徳田 昌生 さん

グループワークファシリテーター

GOOD?WORKSHOP 溝渕 清彦 さん



### 会場

北ガス文化ホール(千歳市民文化センター) 〒066-0036 千歳市北栄2丁目2番11号

※第3回のみ中心街コミュニティセンター 〒066-0063 千歳市幸町4丁目30

# 目次

## P.01…「ちとせを好きになる市民講座」を終えて

みんなで、ひと・まちづくり委員会 会長 吉田 純一

## P.02…第1回 千歳の歴史 ちとせと空港のはじまり物語

「千歳のまちの成り立ち」 前千歳市市史編纂担当主幹 中村 康文さん

「千歳の空港の歴史」 千歳市企画部空港政策課空港調整係長 石徹白 悟さん

## P.05…第2回 千歳の現在① 魅力がいっぱいのちとせ

「ちとせの観光」千歳市観光スポーツ部観光企画課企画振興係 藤原 あづささん

「新千歳空港の魅力」 千歳市企画部空港政策課空港政策係長 中谷 要さん

## P.08…第3回 千歳の現在② みんなで育てるちとせ

「みんなで夢実現 ～千歳市のまちづくり～」 千歳市長 山口 幸太郎さん

「千歳で農業をする魅力と可能性」

株式会社けーあいファーム代表取締役 五十嵐 重明さん

## P.11…第4回 千歳の未来 ちとせの未来はどうなるの？

「ちとせの未来はどうなるの？」 千歳市企画部企画課長 小尾 千智さん

千歳市企画部主幹（政策推進担当） 横山 貴史さん

グループワークファシリテーター GOOD?WORKSHOP 溝渕 清彦さん

## P.19…第5回 まちを好きになる学び ひとりひとりができること

「市民が中心となってつくった市民のための学びの場」

いしかり市民カレッジ運営委員会 徳田 昌生さん

「講座企画から開講までの実際」

いしかり市民カレッジ運営委員会委員長 林 一元さん

グループワークファシリテーター GOOD?WORKSHOP 溝渕 清彦さん

---

## 「ちとせを好きになる市民講座」を終えて

みんなで、ひと・まちづくり委員会 会長 吉田 純一

---

5回にわたり開催しました「ちとせを好きになる市民講座」ですが、みなさまのご参加により、盛会のうちに全日程を終了することができました。誠にありがとうございました。

本講座では、千歳の過去、現在、未来、そしてまちを好きになる学びをテーマに、まちの歴史、観光、空港、まちづくりの課題や展望について学び、それらを踏まえて、一人一人がどんなことができるかについて、一緒に考えました。

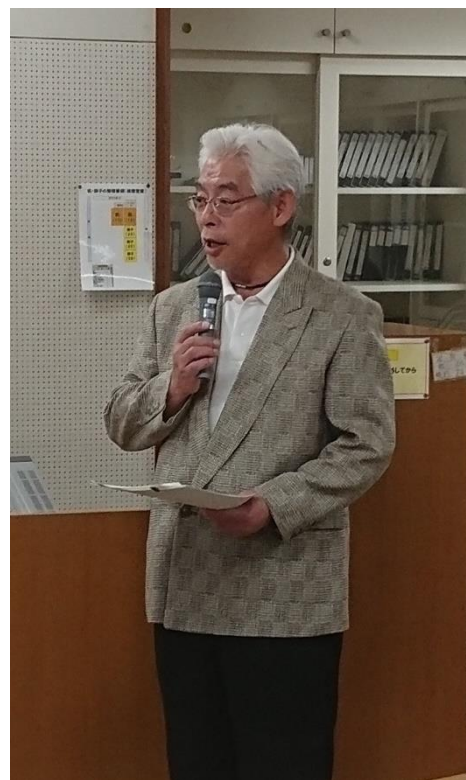
ここで学んだこと、気づいたことをご自身の経験、財産として、これから皆さんが千歳のまちづくりに、「自分ごと」として参加していただき、みんなで一緒に、ますます魅力がいっぱいのちとせをつくっていただけることを、願っています。

みんなで、ひと・まちづくり委員会では、今回実施した「ちとせを好きになる市民講座」のように、私たち市民の力で千歳の魅力を知り、伝え、広げられるような学びの場をつくり、市民ひとりひとりがこの千歳で活躍できるような場づくりをしていきたいと考えています。

石狩市では、第5回の講座でいしかり市民カレッジ運営委員会からご紹介があったように、そうした取組が10年あまり行われています。

ここ千歳でも、こうした取組を今回受講された皆さんとともにつくっていききたいと考えており、今後もみなさんが千歳のまちを舞台にさまざまな活動をされ、まちづくりのリーダーとなれるような学びの場を提供していきたいと考えています。

今後の事業も、ぜひご参加いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



# 第1回

## 千歳の歴史

### ちとせと空港のはじまり物語



## 千歳のまちの成り立ち

前千歳市市史編纂担当 中村 康文 さん

千歳周辺の土地は、今から 10 万年前に出現しました。4 万 2 千年前には支笏火山が大噴火し、その後 6 千年前には地球が温暖化し、美々付近まで海が入り込み、この時期に美々貝塚や動物型土製品、キウス周堤墓群などの文化財が形成されました。ウサクマイ C 遺跡には今から 1 千年前の擦文文化の遺跡が残されています。朝日町からは、今から 350 年前につくられた丸木舟が出土しています。

江戸時代の千歳は、運上屋が設置され、シコツ越え（今の本町のかめや旅館と新千歳空港 B 滑走路付近の間）と呼ばれるなど交易が盛んでした。千歳は、もともとシコツと呼ばれていましたが、死骨に通じて縁起が悪いとして、羽太まさやずに改名をお願いして、当時鶴が多くいたことから千歳と命名されました（命名の経緯は釜加神社弁財天御厨子に記されています）。

明治 2 年には、千歳郡地域に高知藩が入植するも、廃藩置県で同 4 年に撤退しました。明治 6 年には札幌本道が開通し、千歳は宿場町として栄え、明治 13 年に戸長役場が開庁、明治 17 年には山口県からの入植があるも、農作物の少ない収穫量と重労働で、住民は他の地域に移ってしまいました。明治 19 年には殖民地選定事業により開拓が進みました。当時は炭焼きが盛んに行われ、由仁に鉄道で運搬したため、東千歳地域が栄え、千歳地域は裏街道となり衰退しました。

千歳川には古くからサケマスがのぼり、明治 16 年には種川方式として天然ふ化で保護されましたが成果が上がらず、人工ふ化に移行し、明治 21 年に千歳中央ふ化場、明治 29 年に捕魚車が設置され、サケマスふ化事業が本格化しました。支笏湖のヒメマスは、明治 27 年に藤村信吉により阿寒湖から移殖され、昭和 10 年代にはチップ釣りの最盛期を迎えました。

大正 15 年の千歳線（鉄道）の開通と、着陸場の建設はその後の千歳発展の大きな契機となりました。昭和 14 年には海軍航空基地が開庁することになり、乱開発を防ぐために都市計画が行われ、駅前通りのコンクリート舗装、海軍用の水道などが整備され、人口が増加し、千歳村は千歳町となりました。戦後、昭和 20 年、海軍の撤退により、千歳の人口は減少しましたが、連合軍の進駐やオクラホマ州兵師団の駐留により千歳は再び活気を呈します。千歳の若い米兵は戦死する者も多く、金遣いが荒く、これを目当てに全国から飲食業の女性 2 千人以上が千歳で働きました。風俗が乱れ、性病が広がり、当時の千歳は悪のまちと言われました。

その後米軍は順次撤退し、基地で働く従業員の大量失業が発生しますが、代わりに自衛隊各隊が千歳に入り、失業対策の工場誘致などが行われ、千歳は発展します。昭和 33 年の市制施行後は、工業団地や空港、泉沢向陽台の造成、鉄道高架などで発展を遂げました。千歳は火山灰地や裏街道、米軍撤退など様々な困難を乗り越え、飛行場の設置、自衛隊の開庁、工場誘致で発展しました。



## 千歳の空港の歴史

千歳市企画部空港政策課空港調整係長 石徹白 悟 さん

新千歳空港は、年間 15 万回の離発着があります。主にターミナル側の A 滑走路は着陸用に、もう 1 本の B 滑走路は離陸用に使用されています。面積は 726 万平方メートルで、東京ドーム 155 個分、市役所から勇舞までの地域が入るくらいの広さです。平成 30 年は年間 2,331 万人の利用があり、国内第 5 位で、国内線に限っては全国第 2 位となっています。かつて、千歳ー羽田間は搭乗者数世界一の路線を言われましたが、今は韓国のソウルーチェジュ間が世界一とされています。

千歳の空港の歴史は、大正 15 年に鉄道ができ、小樽新聞社がサケのふ化場を見たいと観楓会を千歳で実施したことがきっかけです。千歳で昼食のもてなしをすることになり、それに感激した新聞社は自社の飛行機を飛ばすことになり、飛行機を着陸させて近くで見たいと、着陸場をつくり、飛行機を着陸させたことに始まります。

当時、着陸場の建設は、村民大会で「札幌で昼食を食べ、映画を見るには 3 円かかるが、千歳で着陸場を作り、生で飛行機を見ると 2 円 80 銭ですむ」と説明し、着陸場づくりが実現しました。当時 5 千人の村に 1 万人もの人が飛行機を見に来たそうです。

そのときに千歳に飛来した北海 1 号機は、故障が多く、小樽新聞社保有の飛行機はこれ 1 機のみであったため、小樽新聞社航空部は半年間で解散してしまったそうです。

次に 2 番機として永田重治操縦士が操縦する飛行機が飛来しました。永田操縦士本人には、千歳一番機と伝えていたようで、後に 2 番機と知ったときは本人はショックを受けたとのエピソードが残っています。

その後、千歳には民航機がなかなか来ることがなく、軍隊の誘致に力を注ぐこととなります。昭和 14 年に海軍航空隊が千歳で開庁し、同じ年に毎日新聞社のニッポン号が日本発の世界一周機として羽田を出発し、千歳を経由して、アラスカに飛びたちました。千歳は地盤がしっかりした飛行場の適地でありましたが、海軍航空基地があり、軍事機密上から千歳を経由することは伏せられ、根室を経由すると公表されていました。実際には千歳を経由し、これが分からないよう記録写真に根室の関係者を入れて撮影するなど偽装工作が行われるくらいでした。

戦後は、北海道の空の玄関を丘珠と争います。積雪の少なさ、火山灰の固い地盤と平坦性、一定した南北の風、米軍による高水準の整備などから、千歳が北海道の空港となりました。



# 第2回

## 千歳の現在①

### 魅力がいっぱいのちとせ

---

## ちとせの観光

千歳市観光スポーツ部観光企画課企画振興係 主事 藤原 あづさ さん

---

千歳市では市内で道内旅行者、道外からの旅行者、海外からの旅行者それぞれに、その目的や傾向に合わせた観光施策を行っています。また、市内を「支笏湖エリア」「市街地エリア」「ハーベストエリア」に分けてPRしています。

道内観光客向けとしては、道の駅が多く利用されており、国内最大級の淡水魚水槽があるサケのふるさと千歳水族館や、道内「道の駅」随一の充実を誇るフードコート、レストランのほか、トイレがきれいだと感じた道の駅ランキングでは2年連続1位を獲得しています。

道外観光客向けには、「ヨリミチトセ」をコンセプトに、千歳だけを目的地とするのではなく、道内の魅力的な観光地を周遊する初日または最終日、空港を利用する前後に、空港から車で1時間圏内にこんな魅力的なスポットがあるので立ち寄ってみませんか、というPRを行っています。また、支笏湖は11年連続水質調査ランキングで1位を獲得していることやレイクダイビングができることなど、千歳にしかない魅力をPRしています。

海外からの観光客、特にアジア圏からの観光客は、以前は団体ツアーが主でしたが、最近では個人観光客(FIT)が増えており、空港からレンタカーやJRを使って周遊する傾向にあり、また千歳での宿泊者も増えています。冬季期間のゴルフ場で雪を満喫できる雪上バギーやそば打ち体験、ハスカップ狩りなどの体験メニューが人気で、現在の観光は「見る」から「体験する」へとシフトしていると言えます。

観光PRをするうえで大切にしているのは、ストーリーを伝え、その魅力をイメージしやすくすることです。例えば支笏湖は水質に優れ、動物性プランクトンが少ないことからワカサギが繁殖しないこと、また全国で2番目の水深を誇るため、湖水内の循環が生まれることなどから、そこで育つヒメマスは臭みがなく、またストレスなく育つことができ、支笏湖チップとして美味しく食べることができる、といった伝え方をしています。

最後に、これからの千歳の新たなツーリズムとして、千歳アイヌ縄文文化ツーリズムを紹介します。千歳市には今もアイヌ文化が色濃く残っており、道の駅サーモンパークでもアイヌの人々が鮭を神に捧げる伝統的な行事「アシリチェプノミ」を再現しました。また、市内のキウス周堤墓群の世界遺産登録も目指しています。それらを旅行者が体感できる、文化性にあふれたツーリズムを今後展開する予定です。





## 新千歳空港の魅力

千歳市企画部空港政策課空港政策係長 中谷 要 さん



新千歳空港は、単なる空港の枠を超えて、ショッピングやグルメ、エンターテインメント、リラクゼーションなど、空港内で一日過ごせ、北海道を満喫できる一つの観光スポットとして進化を遂げています。また、新千歳空港は国内で初めて24時間運用が始まった空港でもあり、深夜、早朝便が充実し利便性も高まっています。

その魅力をさらに高めるのが、民間委託による運用開始です。民間委託により空港全体の経営を一体化させ、商業施設での収入を原資に着陸料を引き下げることにより、路線数を充実させ、さらに多くの方に空港を利用してもらうことができます。また、空港内サービスのさらなる充実や地域における雇用、ビジネスの創出等、民間の資金とノウハウを活用した運営が期待されています。

今回の民間委託は道内7つの空港を一括で運営委託するもので、道内の空港機能を分散、拡大することで、北海道全体での旅客数増を目指します。中でも新千歳空港はグローバルゲートウェイに位置づけられ、北海道全体の航空ネットワークの拡大と観光市場の成長を牽引するリーディングゲートウェイとしての機能を担います。

もう一つの最新の話題として、今年8月の国際線ターミナルリニューアルがあります。開放的なターミナルに、カウンター等が増設されました。ターミナルビル内はアイヌのデザインを取り入れた独創的な雰囲気、各種サービスも充実しています。併設されたPORTOM HALLは、国際会議を想定した移動観覧席を備えた施設です。また併設ホテルとしてPORTOM INTERNATIONAL HOKKAIDOが来年1月にオープン予定で、最もハイグレードな数寄屋スイートは、日本の伝統的な建築様式である数寄屋造りをモチーフとしており、宿泊料は参考価格で100万円となっています。その他安価な客室は1泊3～4万円程度です。

最後に、これからの新千歳空港のイメージですが、道内7空港のリーディングゲートウェイとしての機能を備えるため、30年後を想定し新たに国内線、国際線共用の旅客ビルT3を新設し、十分な空港容量を確保する方針です。これに対する想定投資額は約612億円です。旅客機能だけでなく、空港全体をホッカイドウ全域の魅力を発信する「北海道ショーケース」に改修し、サービス、コンテンツがさらに充実していきます。

# 第3回

## 千歳の現在②

みんなで育てるちとせ

現在の千歳市のまちづくりは第6期総合計画に基づいて進められており、これは平成23年度から令和2年度までの10年を計画期間としておりますが、社会状況等の変化に合わせて分析・検証のうえ必要に応じて見直しを行っています。本計画の2本柱は人口と財政です。将来都市像「みんなで生き生き 活力創造都市 ちとせ」を掲げ、人それぞれ異なる



価値観にこたえていく必要があります。現在は計画の検証・分析の時期であり、施策の達成度はほぼ100%となっておりますが、除排雪など、施策を充実させるほど要望が高まるものもあります。

これらを踏まえ、現在第7期総合計画策定に向けて準備を進めています。策定にあたっては、市民等を対象にしたアンケートやまちづくりインタビュー、ちとせの木プロジェクトなど、多様な手法による市民意見の把握と、総合計画審議会などの幅広い市民参加機会の確保を大切にしています。

次期計画の中で最重点課題としているのが人口施策です。千歳市の人口の変遷には、自衛隊が大きく関わってきており、昭和33年の市制施行開始以降増え続けています。この勢いを失うことなく、さらなる人口増を目指しており、特に女性に子どもを産みたいという気持ちを持ってもらい、出生数を増やすということが必要ではないかと考えています。

現在は、平成28年3月に策定した「平成32年に97,000人」という目標を2年前倒しで昨年達成し、さらなる目標として100,000人を掲げました。千歳市では国の推計とは別に独自の推計をしており、人口のピークとして出生数2.07人となる条件付きで2039年に100,023人となると見込んでいます。この達成は難しいと思われませんが、新千歳空港の運用拡大による従業員数の増員、企業誘致やホテル建設ラッシュによる雇用創出、科学技術大学公立化などを当面の増加要因としながら、人口10万人を目指す動きの中で、市民サービスのさらなる向上を図り、市民一人ひとりが幸せに暮らせる街づくりを進めていくというのが、第7期総合計画の基本的な考え方です。

千歳市同様、恵庭市も宅地開発や空港従業員転入等により道内35市中唯一人口が増えた市であり、恵庭市との連携を今後強め、足りない点を補完し合う体制づくりを進めています。

日本創生会議の平成26年増田レポートにおいては全国の約半数、道内の8割が消滅可能性都市として挙げられていますが、この人口推計から、若い女性がこの街で暮らしたいと思ってくれるまちづくりが重要であるのとらえ、出産から子育てまで切れ目のない子育て支援、婚活事業、出産に対する助成制度など、若い人が将来までこの街に魅力を感じ暮らしてくれる事業を展開しています。

年齢区分別人口を見ても、千歳市は高齢化率は全道一低く、生産年齢人口と年少人口の割合は全道一高いことからその活力がわかります。人口動態についてはこれまで増であった自然動態が平成30年に初めて減となったものの、出生率は未だ高い水準を保っています。社会動態については自衛隊の体制動向が大きく関与しています。人口は地方交付税の算定基礎にもなるまちの活力の礎であり、人口減は生産力、経済力の減、地域間人口移動による市民サービスの維持困難化などが起こりうるため、人口施策を最重点課題としているところであり、現在住んでいる市民だけでなく、将来

にわたって千歳がいい街だ、訪れてみたいと言われるような、活力の維持、サービスの充実、魅力の発信に取り組んでいきます。

この実現のために、行政だけでなく、市民がまちづくりの主役になる市民協働がますます重要になるので、本日参加された皆様におかれましては、その担い手としてご協力をお願いいたします。

---

## 千歳で農業をする魅力と可能性

株式会社けーあいファーム 代表取締役 五十嵐 重明 さん

---

千歳市内は大きく分けて支笏湖エリア、空港・市街地エリア、農業地域エリアに区分され、けーあいファームは農業地域エリアの中でも長都、釜加、都のエリアに位置します。農地は約 75 ヘクタール、45 名の従業員を通年雇用しています。

北海道で農業といえば、十勝地方を連想しますが、千歳でもそれに匹敵する大規模な農業が行われており、その農地面積は約 7,000 ヘクタールです。今日はドローンを使って千歳の農業地域エリアを撮影した映像をご覧ください。

～動画上映～

千歳市は農業が盛んであり、石狩管内で第 1 位の農業産出額を誇ります。気候も農業に適しており、多様な作物が栽培されています。特に鶏卵は道内一の生産量です。また、空港を有する点、札幌や苫小牧港への近接性など、交通条件の優位性もあり、千歳で農業をすることを決めました。千歳ではこの交通利便性を活用し、朝とれたとうもろこしを朝のうちに空港から空輸し、午前 11 時には首都圏のショッピングセンターで販売するなど、輸送費は通常以上にかかりますが、ブランド価値を高めて販売する取り組みも航空会社との連携により実現しています。また、直売所など価格をこちらで決めて販売できる場が多いのも魅力の一つです。

農業経営上、冬の農作業がない期間の雇用が大きな問題の一つですが、市内立地企業の中に冬期が繁忙期となる企業があり、その企業の業務を一部受託することで、従業員の通年雇用が可能となり、ウィンウィンの関係を築くことが出来ました。

消費者との関わりについては、市内でグリーン・ツーリズムが推進されています。配布した千産千消MAP<sup>マップ</sup>のおり見どころが数多くあり、気軽に農業体験をできる内容となっています。最後に、農業風景のドローン撮影動画をご覧ください。

～動画上映～

動画でも見られたように、都市部近郊でこれだけ大規模な農業が行われているのは、千歳の大きな特色です。これをまちの魅力として発信し、若い世代の農業従事者が増えることを願います。





# 第4回

## 千歳の未来

ちとせの未来はどうなるの？

## ちとせの未来はどうなるの？

千歳市企画部企画課長 小尾 千智 さん

千歳市企画部主幹（政策推進担当） 横山 貴史 さん

—千歳市企画部企画課長 小尾 千智 さん—

総合計画とは、市が10年間単位で、総合的かつ計画的に施策を進めるために定める、市政の最上位にあるものです。

第6期総合計画は7つの基本目標の下に、136の具体的な取組が定められ、さらにその下に700を超える施策を展開しています。

現在、令和3年度から12年度を期間とする第7期総合計画策定を進めており、千歳市は全国でも数少ない人口増加を続ける自治体として、その勢いを持続させていくことを目標としています。

第7期総合計画策定にあたっては、まず第6期総合計画達成状況の検証のほか、市民の意向把握も重要であり、アンケート調査（約4,100件回収）や、まちづくり委員会（学生や老人クラブ等）、ちとせの木の取組（市職員の提案で、市役所来庁者から千歳のまちへの思いを貼ってもらう）を実施しました。

アンケートについては平成20年、26年の結果と比較すると、重要度が高いが満足度が低い項目がいくつかあります。医療環境については年々満足度は高くなっていますが、長く安心して暮らすために大切な項目ですので、今後も満足度プラスを目指します。生活環境や安全・安心については、ささえーるの開設等により消防・救急体制は満足度が向上した一方で、北海道胆振東部地震の影響もあり防災体制は重要度が高まり、満足度が低下しており、自助、共助の体制整備を進めていきます。除排雪については満足度に個人差がありますが向上しています。道路整備は満足度が下がっていますが、非常に経費がかかるため、短期間ですべてを整備することはできないことをご理解いただきたいと思います。情報提供については、ホームページの閲覧しにくさ等により満足度が低くなっているものと考えられます。

学生向けに行った将来に関する意向調査では、将来千歳に住みたいか、将来千歳で働きたいかについて、いずれも中学生よりも高校生、高校生よりも大学生が低くなっており、いずれの年代も住みたいより働きたい意向が高い結果でした。若い人を呼び込むために、魅力を高めていく必要があります。

まちづくりインタビューの結果、若者からは買い物場所等、高齢者からは元気に安心して暮らせる環境、自衛隊からはまちのPRや全世代が安心して暮らせる環境づくり、外国人からは外国語対応やwi-fi環境整備、市街通勤者からはバス利便性向上、中心市街地からは魅力のPR等がそれぞれ求められました。

都市経営会議では、市民アンケート対象者から募集し24名が参加、提言書を提出されました。

第7期総合計画のキーワードは①人口②財政③連携です。千歳市の財政は豊かだとよく言われますが、北陽小分離校建設等の大型事業や公共施設の維持管理に膨大な費用がかかります。市単独ではなく、恵庭市との連携、札幌連携中枢都市圏、北広島ボールパークとの連携、各大学との連携、そして何より市民のみなさんの協力が必要です。

千歳の魅力について尋ねると、なかなかまちなかの魅力に触れられることはありません。そうした魅力が伝わるまちづくりをしていきたいと考えています。



—千歳市企画部主幹（政策推進担当） 横山 貴史 さん—

千歳市は現在、人口増加施策とシティーセールスを最重点課題として取り組んでいます。

千歳市の人口は89年連続で増加しており、年齢区別でも生産年齢人口比率が道内他地域より高く、平均年齢の若さも道内一です。昼夜人口比を見ると、夜間人口が95,648人であるのに対し昼間人口は99,138人で、日中時間帯に10,384人が他市に流出している一方、他市から13,874人が市内に流入しており、この流入は通勤、通学者であると考えられます。

人口の増減要因については、社会増、自然増ともプラス傾向ですが、平成30年は初めて自然増がマイナスとなりました。

交流人口については、市内に立地する新千歳空港の乗降客数は増加傾向にあります。観光入込客数は宿泊客よりも日帰り客が圧倒的に多いですが、外国人観光客では宿泊客が増加傾向にあり、宿泊施設数も今年度一気に増えました。

学生数については、リハビリテーション大学の大学化、日本航空専門学校国際航空ビジネス科の市内移転、科学技術大学の公立化などにより増加しています。

また、市内で結婚、出産をしてもらうことも、人口増加の大きな要因となります。

これらの人口動態を踏まえ、千歳市では平成27年3月に「千歳市移住・定住促進プロジェクト」を、さらにそれを強化発展させ平成28年3月に「千歳市人口ビジョン・総合戦略」を策定。平成32年度に定住人口97,000人を目標としましたが、平成30年4月18日に前倒しで達成しました。

現在も「転入数の増加、転出数の抑制」「婚姻率・出生率の増加」「交流人口の拡大」等を図るため、不妊治療費助成や保育施設の定員拡大など様々な施策を展開しており、第7期総合計画及び次期総合戦略では人口10万人を達成するための「基本理念」や「具体的な戦略」を構築します。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、千歳市の人口は97,000人をピークに減少するとされているところ、様々な施策を総動員し、10万人達成に向けた市独自の推計を行います。

また、「売り込め 千歳！」をキャッチフレーズに、千歳が潜在的に持っている「価値」、具体的には「空港」「若いまち」「きれいな水」「交通利便性」などを、どんどん発信し、千歳の知名度向上を図るとともに、市民のまちへの愛着や誇り、ふるさと意識の醸成を目指します。こうした魅力の発信が、さらなる魅力を生み出し掘り起こす力になり、好循環が生まれます。



## グループワーク～ちとせの未来はどうなるの？～

GOOD?WORKSHOP 溝渕 清彦 さん



最初に A4 版の紙に名前、住んでいる地域や所属、趣味を書き、名札として机に置き、グループ内で自己紹介を行いました。

グループワークでは下記ワークシートを使って、これまでの「ちとせを好きになる市民講座」で学んだことのうち、関心を持ったテーマを書き、そのことについて感じたことや、10年後千歳のまちがこうなっていてほしいという展望を書き、それをグループ内で意見交流しました。

短い時間ながら、参加者は活発に意見交流を行っており、それぞれの千歳のまちに対する思いを聞くことができました。

意見交流の内容は、別紙とりまとめのとおりです。

2019.11.16 第4回 ちとせを好きになる市民講座

これまでの講座で、あなたが関心を持った、まちづくりの「テーマ」はなんですか？  
…例えば「空港」「観光」「農業」「地域福祉」「環境」など

1枚にテーマは  
ひとつだけ！

そのことについて どのようなことを感じたり、考えたりしましたか？  
10年後、千歳がどのようになっいてほしいですか？



## 第4回 ちとせを好きになる市民講座「意見交換の結果」

### 1. まちづくり（全般・施設など）に関わる意見

1	千歳は人口が増えていて、各地から移住している方が多いので、「千歳は楽しいな、住んで良かった」と思ってもらえる街になって欲しい。
2	人口が10万人になることが大切でなく、住んでいる人が良かったと思える街づくりをしてほしい。笑いのある街！！
3	人口を増やすだけでなく身の丈に合った街を目指すのがいいのでは？適正な規模の街づくり
4	とてもめぐまれていることを認識しづらくなっているのが残念。みんなが理解して楽しめるようになったら良い
5	なんとなく住みやすい「まち」という思いはあった。住んでいたいと思える「まち」
6	市民と行政の協働。テーマや歌い文句としてではなく、本当の意味で同じ立ち位置に立った協働となって欲しい。現時点では高く強い「カキネ」があると感じています。
7	市民の憩いの場があったら良いですね。私自身も協調性をもってできる限りの協力は惜しみません。ボランティアも含めて…
8	日々の困りごとを気楽に相談できる場が身近にできる（町内会）。皆で地域の安全について考え行動できるようになる
9	情報発信力の強化。千歳市のイベント、動向をTVを通じて発信する（小樽市のように）
10	インターネット環境。地域の環境。犯罪を防止、抑止。
11	防災。関心を深める自分で守る力をつける
12	税負担の軽減。ハード面の整備はこれくらいにし、借金のない状態に戻し、将来的には税負担が少なく住みやすい千歳市を言われるように！！
13	千歳と恵庭や周辺と連携し共に発展したら良いと思います。
14	「グリーンベルト」の活用。札幌の大通公園のように様々なイベントを定着させ、人々を中心街に呼び込む
15	苫小牧イオンのような大規模商業施設の設置。今はユニクロ、大型本屋がない
16	千歳川岸の整備。特にサーモン橋から根志越橋
17	長都駅の拡張。利用客の増大に伴い、安全確保のため駅舎、ホームの拡張
18	最終バスが早すぎる

## 2. 高齢者や子どもに関わる意見

1	高齢者の問題。老後も安心して暮らせる千歳市に！
2	高齢とともに活動が鈍くなる。できるだけ自分で活動できるような施設がほしい。
3	少子高齢化が増々進む社会、交通の便やひとりでも住み続けられる街であってほしい。一人でも安心して生活できる千歳、福祉面で充実させてほしいと願っています。交通の便も含めて。
4	出来ない、やらない前提の答えではなく、高齢者にやさしいまちづくり。温暖化で冬の除雪がだんだん無理になると思うので、隔雪溝を考えてほしい。中心街のドーナツ化防止。
5	高齢者が老後安心して入居できる公営の老人ホーム
6	子どもから高齢者、障がい者までいっしょに役割を持ちながら過ごせる場所がたくさんできて
7	どのような方でもすみやすい街。高齢者、障がい者、子どもなど
8	食育の場を提供し母子ともに健康増進。子育てしやすい環境に。
9	学校を卒業した子どもたちが、そのまま住みついてほしい。それには職場。

## 3. 観光に関わる意見

1	観光により、にぎわいのある活気のある”街”
2	市の観光地をもっとPRする。リピーターを増やし楽しめる千歳市に！！
3	市民も千歳の魅力を知って楽しみ、市外の人たちにも楽しんでもらえるまちになってほしい。
4	日本人が千歳の自然の中でゆったり旅が出来マナーと秩序のあるまちとして観光事業を進めてほしい。外国人の財力を当てにせず、ゆっくり北海道と千歳を希望する。
5	観光と経済人口の増加。外人と交わる機会を増やし、生活できる地域。千歳から若い人が海外へ向かう人づくり。そして地元へ。
6	通過点にしない。東京のハトバスのように半日コース、一日コース等の観光ルートを作る。
7	千産千消マップをいかして飲食店の利用率アップを実現することで観光客数のアップ
8	観光都市だと胸をはって話せるように。夜も歩いて遊べる魅力的なまち
9	千歳の場合、青葉公園の活用
10	観光地としての支笏湖だけでなく千歳川、農村地区の良さを活かした体験型を増やす。
11	支笏湖以外にも案内できる場所があると良い。街中の身近な場所に。

12	支笏湖。水質日本一を未来永劫保持し、清流千歳川とともに生活環境を守り、孫に引き継いで行ける活動の一助
13	市内の人にはもちろん外国、市街の人にぜひ支笏湖などを見ていただきたい

#### 4. 空港に関わる意見

1	移動のための空港から楽しむ機能を高めた街としての充実
2	千歳市民が気楽に言って楽しめる場所になる。駐車場がとめやすくなる。バス便増 etc
3	空港の成立を知り現在の施設の状況を見て今後益々発展すると思いました。北のハブ空港となってほしい。
4	先人たちの熱い思いで北海一号機を千歳に着陸させたことが今につながっており、今後さらに国際空港として世界に知られる空港になってほしい。
5	エアラインの方や海外の旅行者が市街地のホテルに宿泊している方が増えているので、「千歳に宿泊して良かった」と思ってもらえる街になって欲しい。
6	民間委託後の空港が楽しみ
7	第2回の時、30年後の空港がありました。空港ばかりが大きくなり、街が見えない気がしました。羽田成田のように単に飛行機の発着場的になって欲しくないですね。
8	上空にどれだけ飛んでくるか

#### 5. 農業に関わる意見

1	農業体験、農業民宿等、農業を通して自分の健康も守る。そして、人と人とのふれ合いを感じる。自給自足を推進する。
2	物流、地の利を活用し大規模農業、観光農業を活発化したいです。
3	グリーンツーリズムで農業体験を多く。いくつになっても行きたいところに行ける千歳になってほしい
4	交通網の整備された田園都市
5	栄養豊かな美味しい野菜がいきわたる健康インフラとしての農業
6	千歳市で作ったおいしい安全な作物をまず千歳市民（自分たち）で味わいたい。輸出する前に国内消費。
7	これからは安全な食はもちろん水などを考えてアレルギーなどの少ない生活をおくれたら良いと思います。10年後は千歳産のもので給食など
8	北海道の農業は大規模化しつつも安心、安全が担保されています。千歳の農業が空路を利用し全国や世界への販路を広げ大きな役割をしてほしい。
9	作る人を増やす
10	農業を継ぐ人。田園風景は観光資源。食の安全と健康

11	初めて農業をされた方の成功例を知り、今後の発展が見込まれると感じました。明るい未来が見込まれる農業に若い担い手が増加することを期待します。
----	---

## 6. 自然環境に関わる意見

1	野生の生き物たちとの共存。地球（千歳）で一緒に暮らせるように。お互いが傷つけ合わない環境づくり。
2	自然環境の素晴らしい現在の千歳をこのまま保って欲しい。水源地や野生動物を守って、美しい森を守る。
3	水のおいしいまちなので市内外に知ってもらい、水のまちとして国内外に知られている。
4	おいしい水が 10 年後も飲めたらいいですね
5	都市の利便性を保ちつつ、程良い自然環境のある人にやさしい街として 10 年後機能して欲しい。



# 第5回

まちを好きになる学び

ひとりひとりができること

## 市民が中心となってつくった市民のための学びの場

いしかり市民カレッジ運営委員会 徳田 昌生 さん



石狩に市民カレッジをつくりたいと思ったのは、静岡県にある清美潟大学塾が先行事例としてあったことと、当時社会教育委員長として、それが必要だと考えたからです。高齢化社会を迎え、高齢者の生きがいづくりが必要とされており、高齢者の学びたい意欲にこたえたい、また石狩は札幌のベッドタウンであり、石狩に住んでいてもまちのことを知らない市民が多く、そうした市民が石狩に誇りを持ち好きになる環境をつくりたいと考えました。

これをつくるにあたっては、市民が中心となってやるべきと考えました。行政がやろうとすると、さまざまな制約が生じる、実行までに時間がかかる、人事異動により意欲ややる気が引き継がれないなどの懸念があったためです。行政任せにせず、市民の自由な発想で学びの場づくりを始めました。

平成 18 年 11 月に社会教育委員の会議で市民大学を提案、平成 19 年 1 月から学びのスタンプ基本構想について検討を始めました。学びのスタンプは、講座に参加した人に大学の単位認定のようにスタンプを付与するもので、当時は「子ども

もだました」など批判も受けましたが、大変好評でした。講座企画に当たっては、市教委の呼びかけで平成 16 年に発足した生涯学習講座企画ボランティアの会を活用しました。学びのスタンプは当初平成 19 年 4 月から開始予定でしたが、行政側からストップがかかり、2 か月遅れて 6 月からスタートしました。制度運営委員会委員 9 名で、講座情報の収集や提供、通信の発行、手帳発行、修了証授与式などを行いました。修了証は年 2 回、市長から授与されます。その後「いしかり学びをつくる会」を立ち上げ、「いしかり学のスズメ」「学びのスタンプ」「市民カレッジ検討」の 3 グループで運営と検討を重ね、平成 21 年 4 月にいしかり市民カレッジを開校しました。

カレッジは市教委との協働事業とし、運営委員会が中心にあり、企画・事業グループ、総務・広報グループ、まちの先生推進チームの 3 グループからなります。また行政だけでなく教育機関、市民団体、地域企業、道民カレッジ等とも連携しています。開講式には多くの市民が集まりました。協働内容としては市民ボランティアである「いしかり学びをつくる会」が連携団体や講師等との連絡調整、ホームページ管理、資料作成、講座の企画等を行い、市教委は事務局として講座申込の受付や資料の印刷、運営経費管理、会場やバスの手配などを行っています。運営経費は市の予算措置はなく、受講料（カレッジ生 400 円、一般 500 円）とカレッジ生年度会費、広告料により賄っています。講師謝金は一律 10,000 円としており、格安設定ですが断られることはなく、これまで新聞社役員や大学教授等が登壇しています。

---

## 講座企画から開講までの実際

いしかり市民カレッジ運営委員会 委員長 林 一元 さん

---



いしかり市民カレッジの講座は、運営委員会が企画するもの、市民が講師となり企画するもの、連携団体が企画するものがあります。

講座企画に当たっては、各種メディアやイベントから情報収集するほか、受講者の希望講座アンケートも活用しており、今年度は現在のところ38件が寄せられています。「誰でも、何時でも学べる」をモットーに、広く一般市民を対象としており、特定の思想に偏らないよう配慮しています。「××だからできない」ではなく、「〇〇ならできる」と肯定から考えるようにしています。受講者は国籍、居住地に制限は設けていません。講師選定は、テーマを決めてから講師を決める場合と、講師を先に決める場合があります。担当スタッフが連絡・調整を行います。開講までのフローチャートは、資料に掲載のとおりです。

講座のPRはポスターを作成しており、毎回50～60枚を市内に配布しています。

いしかり市民カレッジは、市民とともに歩む市民大学として、“cool mind but warm heart”の思いで運営をしています。“cool mind”はすなわち「十分な思慮を尽くして講座を企画する」こと。“warm heart”はすなわち「温かい心を持って受講者に接する」こと。こうしたおもてなしの心を持って、よりよい学習の機会を提供していきます。

## グループワーク ～まちを好きになる学び～

GOOD?WORKSHOP 溝渕 清彦 さん



最初に前回同様、A4版の紙に名前、住んでいる地域や所属、最近うれしかったことを書いて名札にし、グループ内で自己紹介を行いました。

次に、千歳市第6期総合計画における将来都市像の情報提供を踏まえて、受講者が考える千歳の将来都市像を「学び」の観点から考えるグループワークを行いました。

まず将来都市像のテーマをグループ内で決め、その実現のために必要な「学び」を、「知識」（黄色い付箋）と「力・技能」（青い）に分けて各自意見を出し合いました。

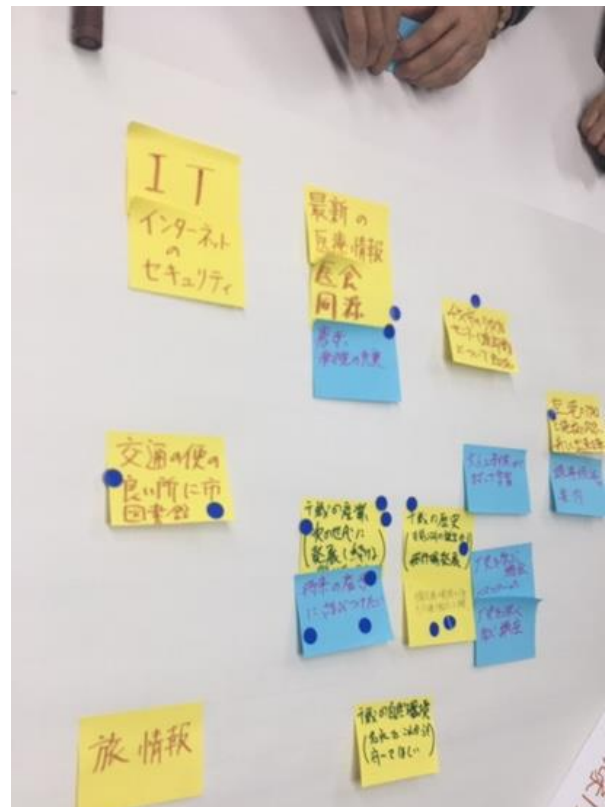
テーマの選定については、第4回講座で行った意見交換の結果を参考としました。

各グループには、みんなで、ひと・まちづくり委員会委員が参加したほか、いしかり市民カレッジ運営委員会の林さんと徳田さんもオブザーバーとして参加しました。

グループワークはテーマ選定や出てきた意見のグルーピングは難しかったものの、テーマは決めずに思い思いに必要なと思う「知識」や「力・技能」を積極的に挙げ、意見交換の場となっていました。

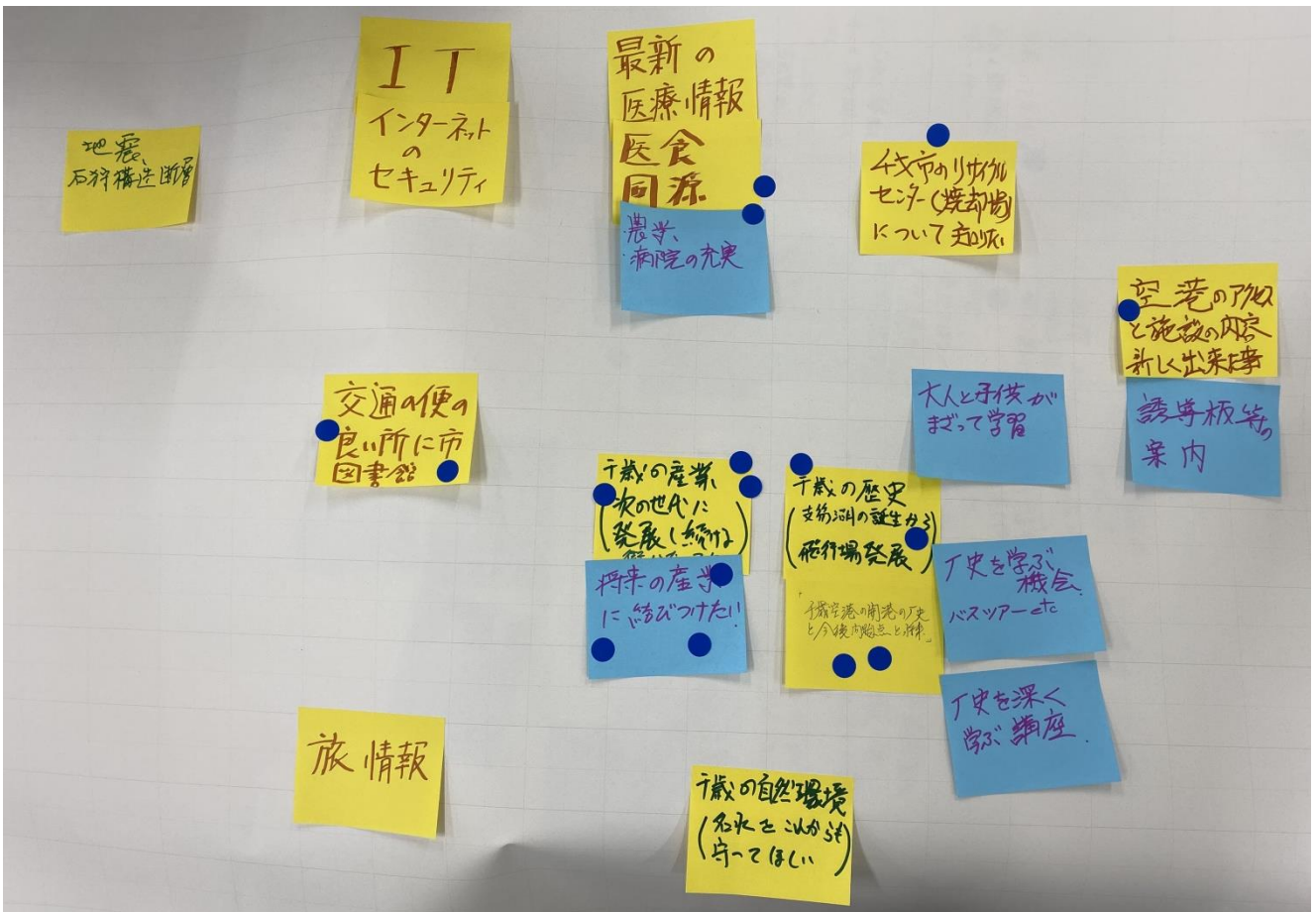
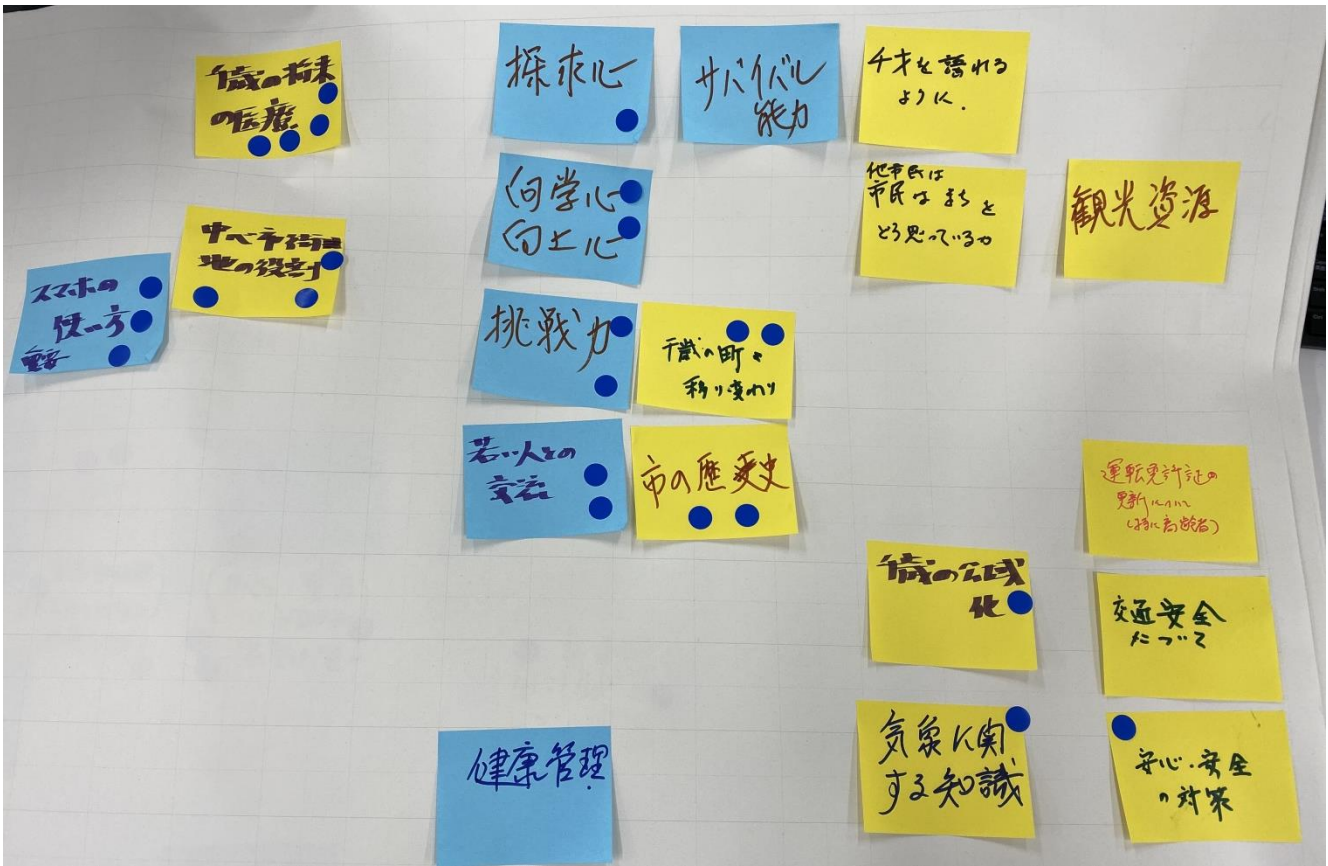
最後にグループ内で出た意見のうち重要だと思うものに投票をし、投票数上位3つを全体で発表しました。

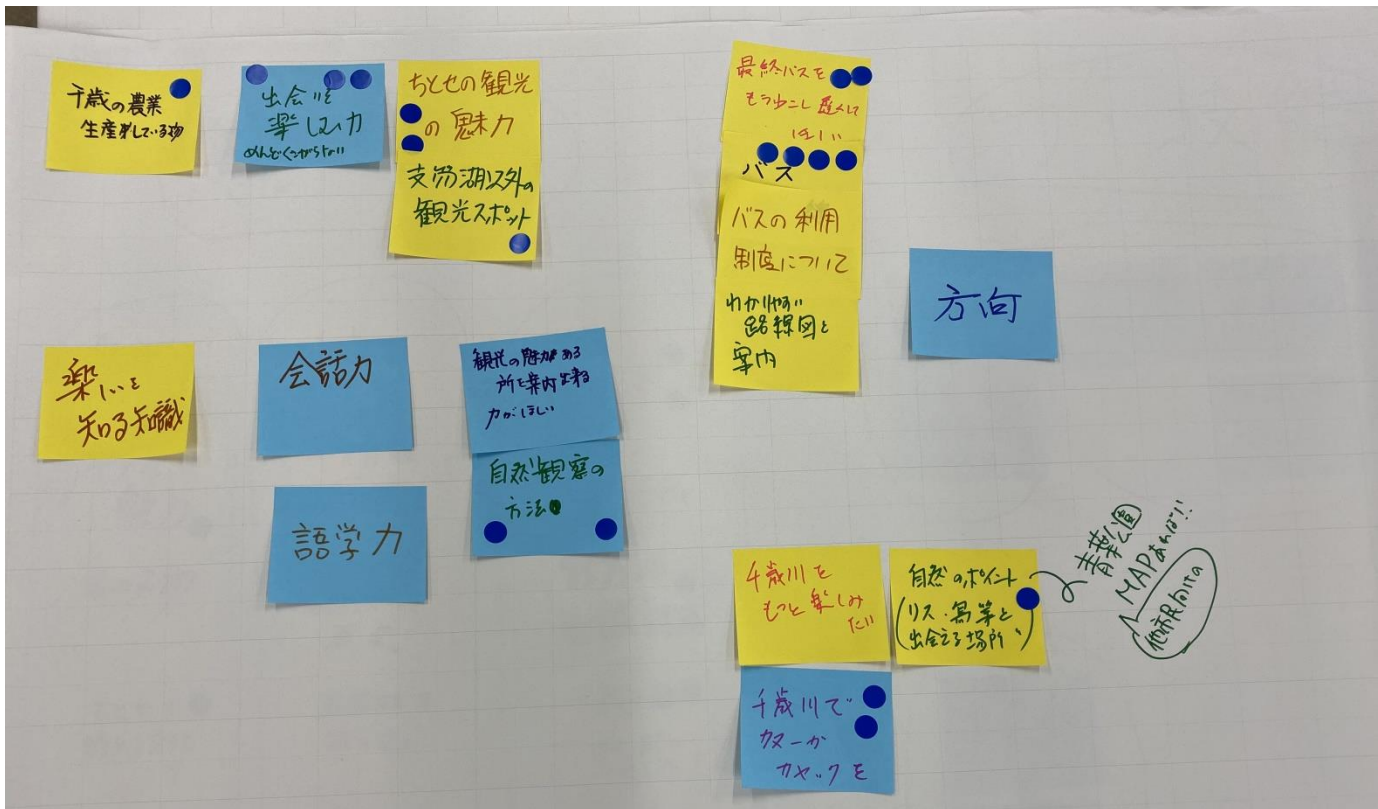
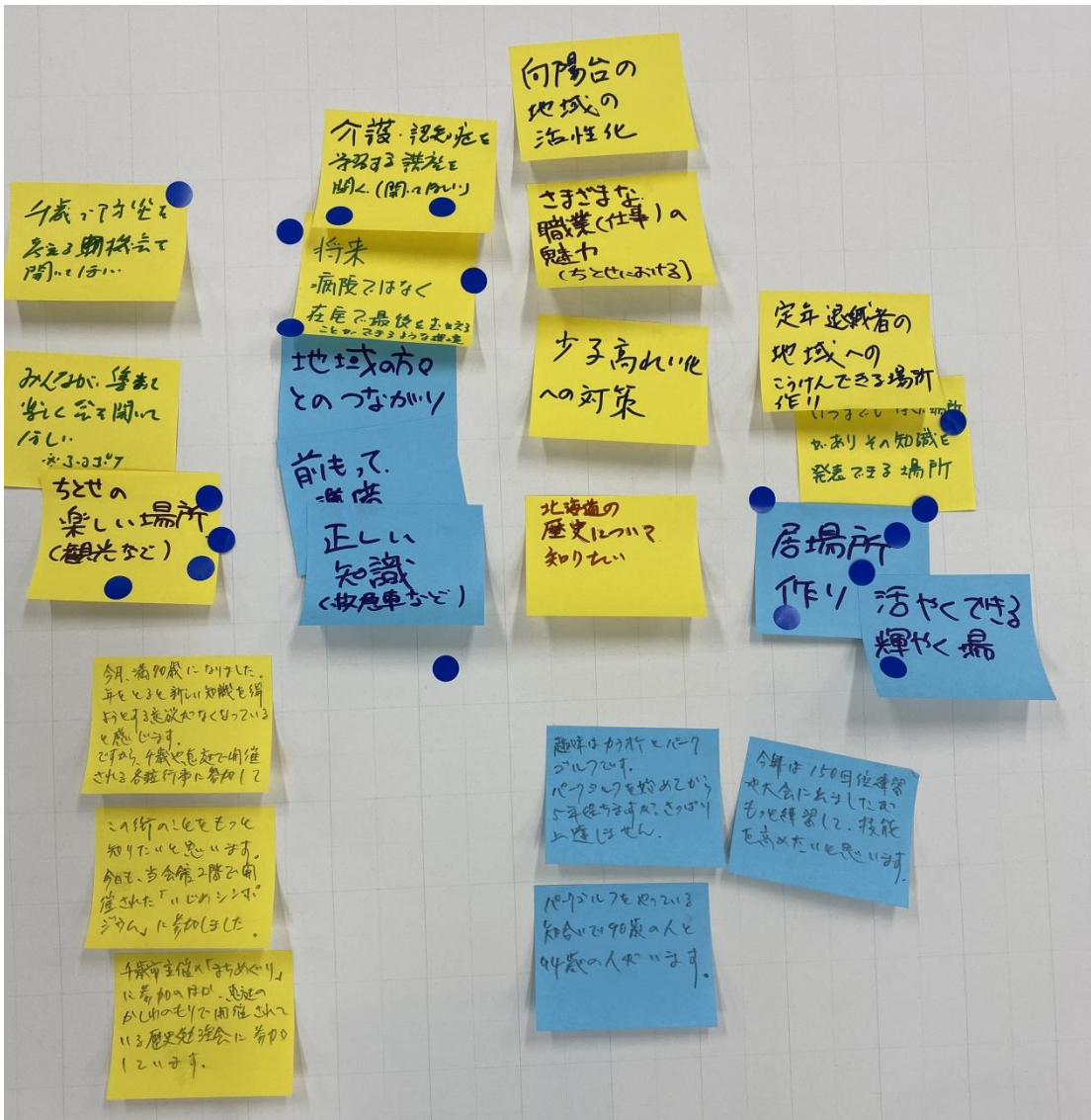
- ・ 未来につながる産業、経済
  - ・ 医療環境
  - ・ 若い人たちとつながる力
  - ・ バスの利便性
  - ・ 千歳の魅力
  - ・ 中心市街地の活性化
  - ・ スマホを使いこなす力
  - ・ 場を楽しむ力
  - ・ 人とつながる意味・力（ボランティアにも挑戦）
  - ・ 町内会のあり方
  - ・ リーダーシップに必要な力
- などがあげられました。



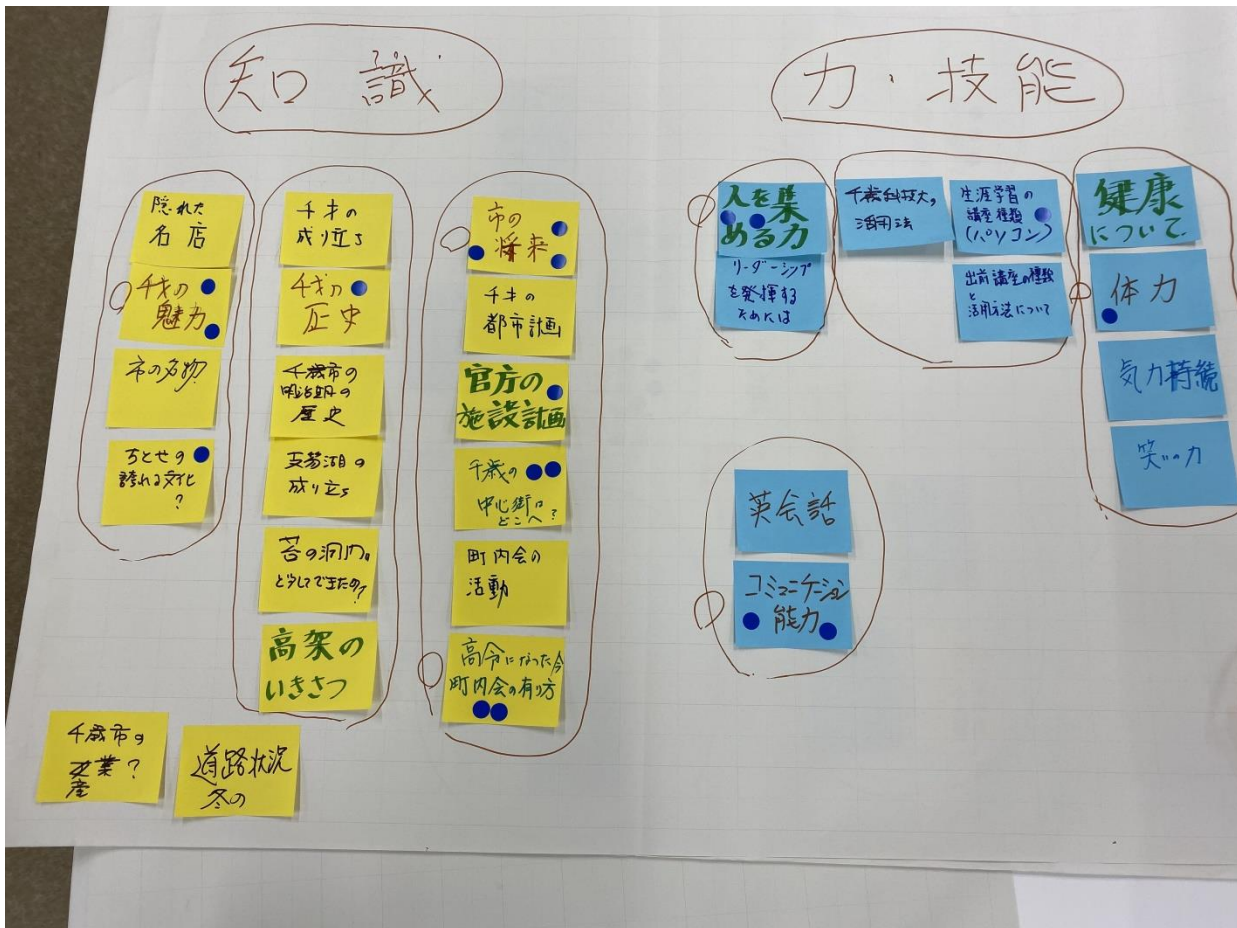
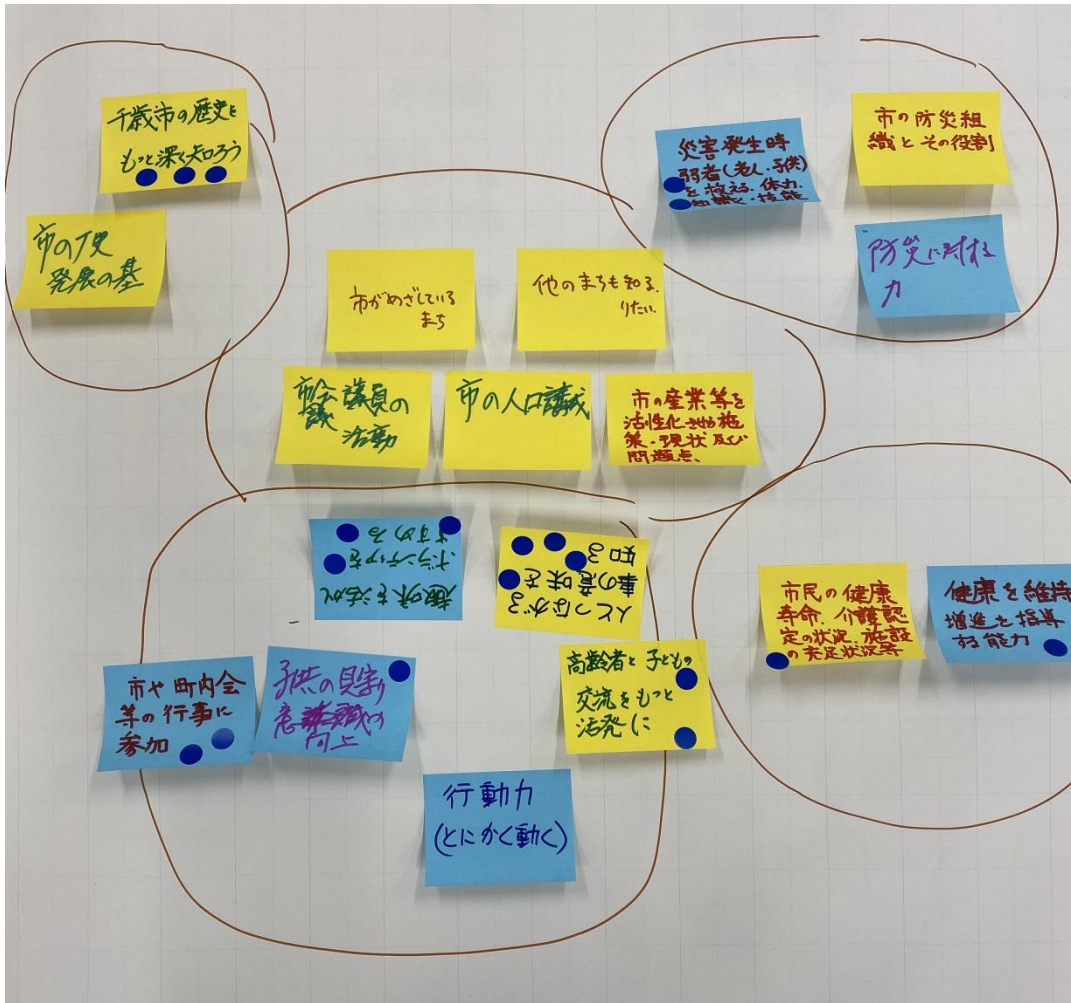


# グループワークまとめ









**製作 みんなで、ひと・まちづくり委員会 2019.12**

※この冊子に関するお問合せ

みんなで、ひと・まちづくり委員会事務局（千歳市教育委員会教育部生涯学習課）

E-mail [shogaigakushu@city.chitose.lg.jp](mailto:shogaigakushu@city.chitose.lg.jp)

Tel 0123-24-3153 Fax 0123-27-3743